

指定
人成

嫁き遅れ
お姉ちゃんの
原園

はじめに



あらすじ

今日もまた、あちら側へと旅立ってゆく人が。彼女はこれまで何度見送ってきたのだろう。白装束を身にまとい、手を引かれ……。友達、親戚、みんなみんな、彼女を置いて先にいつてしまう。

残された彼女のことを、人々はこの呼ぶ、

「嫁き遅れ」と。

そんな彼女は、何故「嫁き遅れ」となったのか。その「原因」のお話。

登場人物

名前／

嫁き遅れお姉ちゃん

性別／

女

身長・体重／

163・52

スリーサイズ／

92・61・80

誕生日／

2月19日（うお座）

理想の男性像が「弟」であるがために、親戚に勧められたお見合い、人数合わせで連れて行かれた合コン等で不沈艦ぶりを発揮し、当年●●歳となった今でも「年齢II」を貫く「嫁き遅れお姉ちゃん」。

見た目は地味だが、かなりの巨乳の持ち主である。

初めて触れる弟さんの唇。

花嫁さんのヴェールを上げるような仕草をして、今度は私の方からキスしてあげました。

「ん……んちゅ……んふうう……っ」

つねばむようなキスから、やがて絡み付くように。弟さんの唇はとても柔らかくて、熱い。私、食べられちゃいそうです。

「ちゅぶ、んんっ……れるう……んぶう……」

卵焼きもお味噌汁も甘め、私の好みの味を知り尽くした弟さん。口の中もほんのり甘い気がします。私も食べちゃおう。

「ふん、ん……ちゅるっ、あんぶ……っ」

二人だけの誓いのキスはとても長くて、何にも見えなくても、体のあちこちに感じる弟さんの温もりが私を安心させてくれます。

「はあ、はあ……ん……？」

弟さんの顔。

私を見つめたり、目をそらしたり、なんだか躊躇っているような……。

「大丈夫。お姉ちゃん、弟さんに全部あげたいんです……我慢しなくていいんですよ」

弟さんの股間に手を伸ばすと、固く張り詰めているのが判りました。

「じゃあ……お姉ちゃんからやってあげますから、ね」

覆いかぶさっていた弟さんの体を優しく押し返し、座って二人向き合うつ、私はカーディガンの前を開いてキャミソールをまくり上げました。そして、ブラの前ホックを指で――。

「ん、はあ……っ」



下着に抑えつけられていたおっぱいが、弾けたように飛び出していきます。

ひとつ屋根の下で暮らしてきて、これまで胸を見られたことがないわけではありません。それでもやっぱり、弟さんの前で胸をさらけ出しているというこの状況は……。 「ん、もう。お姉ちゃんだけ脱いでるなんて、恥ずかしいじゃないですかあ」



「さ、さっさとね……」

上目遣いでどう尋ねると、弟さんはゆっくり頷き、喘いでくれたのです。

「……うん、ありがとう、です。ずっとずっと、待っていてくれて……」

弟さんの頑なな勃起……とても熱くて、固。

触れるだけで、これまでもこれほど私を想ってくれてたのが、伝わって来るようです。

私はそれを、露わになった自らの胸の谷間へと導いて……。

「ん、んん……っはあ……大きい、ね」

「あ、嬉しいです。……そっか、それ、気持ちいい顔なんですわ……よかった。

お姉ちゃんのおっぱいで、んっ、弟さんが気持ちよくなってくれるなら、私も気持ちいいんですよ、はあっ」



「あ……ふっ、もっと強くしてみても大丈夫です……？」
「うん、たくさん擦りつけますね……くっ、んっ」
「あん、あふっ……んあ、何か透明なのが出てきて……ん、
気持ちいいと出るんですか……女の人と同じなんですね……」

ぬるぬるさが増すほどに、弟さんの息遣いも荒くなっています。
唾液を垂らして、下から上へぬるぬるを揉み込むようにしたり、

揉み込んだ勃起をおっぱいでぎゅっと押さえついたり……。
おっぱいで勃起を刺激する度、二人の吐息がシンクロしていきます。
まるでふたりの身体も心も、ひとつに融けあうかのように。
やがてその吐息に、小さく呻くような声が混ざり始めました。

弟さん、そんな声、出すんですね……。

聞いていると、胸が奥がきゅうつとして、

愛しい気体中を駆け巡ります。

「は、はい……いつでも、出してください……んちゅぶっ、ここから、ちゅっ、出りゅ、ん、ああ、大好きな弟さんの精液、わた、しにつ、お姉ちゃんにかけて下さぬっ！……」

「はぶっ、じゅちゅっ、んんつぶ……ふはう」

勢いよく進った弟さんの精液は口内に収まりきらず、

私の顔や髪、あちこちに襲いかかりました。

「あは……お姉ちゃん的眼鏡……真っ白です」

弟さんの精液越しに見える世界。

それはまるで、花嫁さんがヴェール越しに見る世界のように。

ぼんやりと堪能していたら、弟さんが指で少し拭ってくれました。

ふふ……ヴェールオープン、ですね。

拭われた隙間から覗くと、胸も真っ白。

すっかり尖った乳首にも精液はトッピンクがされていて、

ピンクと白が混ざり合って、とてもぬやらしい。



私が「っ熱い息を吐いたことで気付いてしまったのか、弟さんは——。

「はあ……やんつ、くにくにつて、はあ

あつ、乳首、だめ……っんあああっ！」

「……もう、我慢していたのに……」

「ん？……だ、だれが、『イキ遅れ』お

姉ちゃんですかっ！ そういう意味じ

やないでしょ——もおつ、弟さんのば

かばか、いじわるっ」

「むう、知ってましたよ。弟さんがいじ

わるだつてこと。でもね、結局は私のお

願い、いつもきいてくれましたから」

「おいしいものも、たっくさん、食べさ

せてくれました」

「へる、ん……ちゅく……ん、やつぱり

弟さんのは、なんでもおいしいです」

「これから、たっくさん、お姉ちゃん

にごちそうしてくださいね」

ほぐれきつたところをぐにぐに握ね回される度に体が震えてしまいます。

「んっ、おちんちん、はあっ、入れ、てえっ……ん、は、ああああああっ……！」

限界まで大きく張りつめたものが、私の膝内へみっちりと根元まで埋められました。



「く、ふうっ、はあああ……っ、
「大丈夫、痛く、ない……あつ、
ちが、痛い、けど……嬉しいから
……いっぱいしてください、ね」
表に出さない熱情をぶちまげるか
のように、繰り返し繰り返し、私
の中を強く突き上げる弟さん。
「ああ、んうっくあ、あふっ」
時に決るようなその動きは、私の
体も強く揺らします。

イ

私が少しでも辛そうな顔を見ると、
その度に優しいキスをくれます。
「ん、うんっ、はあ、いいの……
お姉ちゃん、もっ、はあ、止めら
れ、ないっ、ですから……っ」
「ずんずんって、される度にああ
あんっ……ね、こうやって、中でも
外でも、しがみついちやう……っ」

イ

「弟さんのっ、うん、おちんちんが、気持ちよくて……あふっ、もっと欲しくなるっ」

「はああああ……お姉ちゃんはおと、うとさんだけの、ものだからっ、
弟さんもお姉ちゃんだけの、ものに、しためんですっ、んああっ」

「ん、んっ、んあ、ん、う……ふああっ、ぞぞっ！ きもち、ひ……っ！」

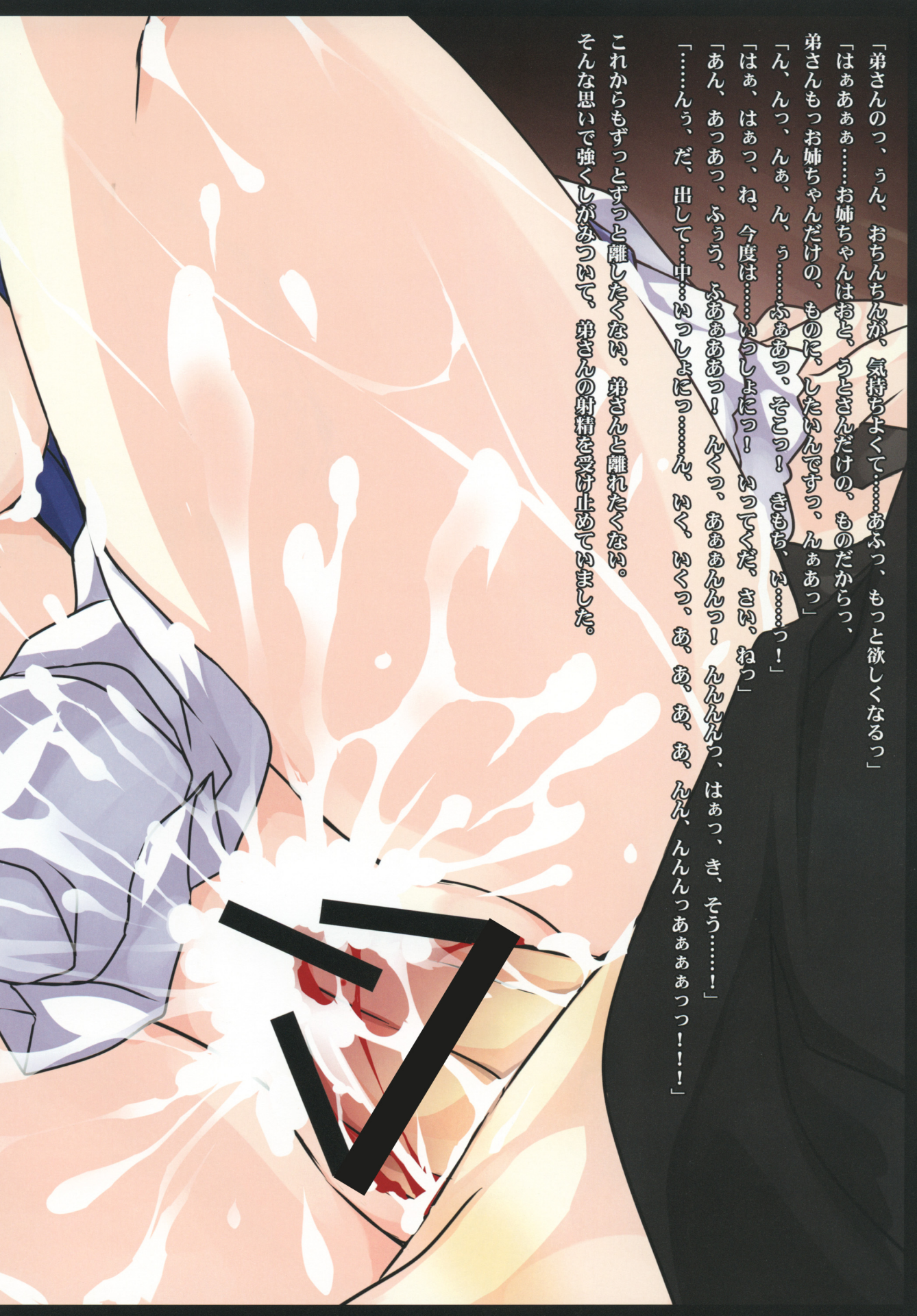
「はあ、はあっ、ね、今度は……ひっしよにっ！ ひってくだ、さひ、ねっ」

「あん、あっあっ、ふうう、ふああああっ！ んくっ、あああんっ！ んんんんっ、はあっ、き、そう……！」

「……んう、だ、出して……中……ひっしよにっ……ん、ひく、ひくっ、あ、あ、あ、んん、んんっああああっ！……！」

これからずっとずっと離したくない、弟さんと離れたくない。

そんな思いで強くしがみついで、弟さんの射精を受け止めていました。







やがて弟さんの緊張が解け、長く熱い息が吐き出されます。

合わせて私も息を吐こうとするものの、弟さんの呼吸でまた腔内に震えが伝わり、甘い刺激となつてしまします。

「んっ、はあああ……あうんっ……はあ、はあ、んう……」

気付いた弟さんがそつと引き抜くと、どろりと、二人の交じり合ったものが溢れ出しました。

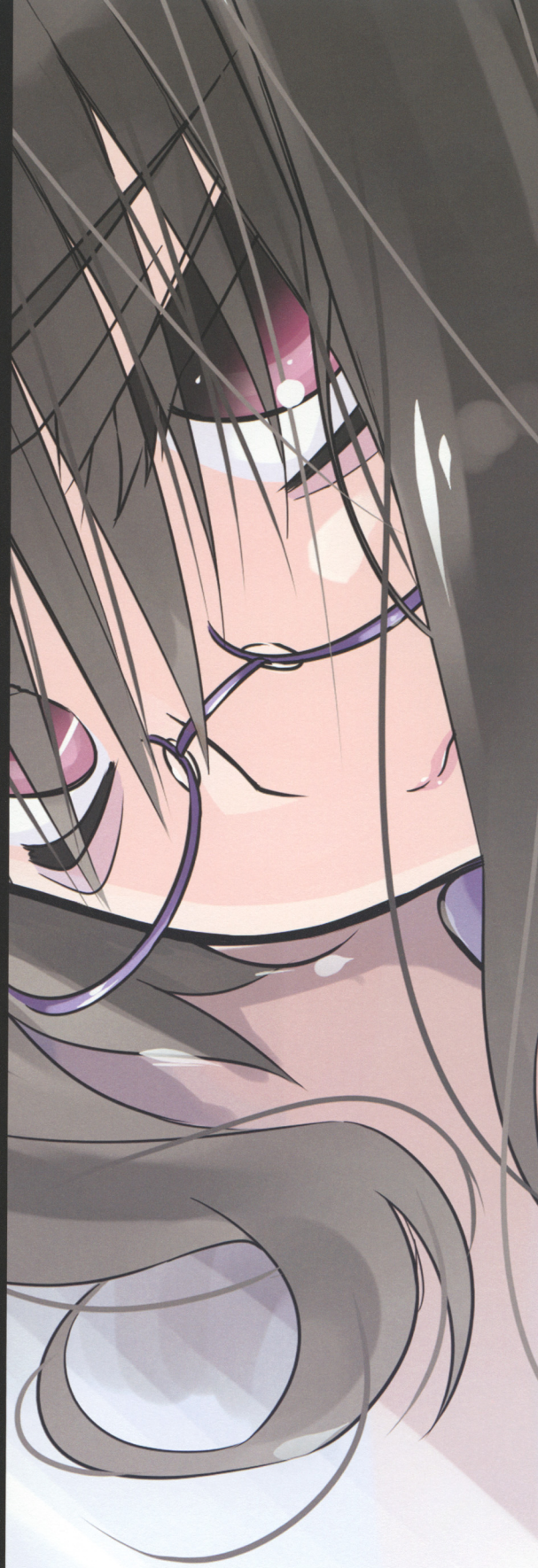
「……ん、ふふっ、たくさん、頂いちゃいました。ごちそうさま、です」

おどけて言う私を軽く鼻で笑つて、いつも通りの素っ気ない顔に戻る弟さん。でも、その頬がわずかに赤くなっているのを見つけました。

A stylized illustration of a hand, possibly a right hand, with a black ink splatter and red blood splatters. The hand is rendered in a soft, painterly style with warm tones of yellow, orange, and pink. The background is dark and abstract, with some purple and blue shapes at the bottom. The overall mood is dramatic and intense.

私は弟さんの手を取り、左手の薬指に、自分のそれを絡ませます。

「嫁き遅れお姉ちゃんですが、これからよろしくお願いします」
素っ気なさはそのままだ、弟さんは薬指を強く握り返してくれたのでした—。



あ と ガ き

この度は黒毛屋本舗「嫁き遅れお姉ちゃんの原因」をお手に取っていただきまして、誠にありがとうございます。

今回は「嫁き遅れお姉ちゃん」ということで、地味系の姉モノ、そして私としては珍しく「普通に結ばれる」姉弟モノを作ってみました。

最初はもっとダウンナー系

の姉だったのですが様々な変遷を経て今の文系地味姉になりました。

展開も「王道」というか「ベタ」な部類に入る今作ですが、そのぶんストレートに姉の可愛さを表現できたんじゃないかと。

この反動で、次回作はまたド変態に振り切れちゃう恐れがありますが、それはそれで、実際その時になっ

てから考ます。

声の担当は今回も、声優の奥川久美子様。

ほんと、どんなキャラでも出来ちゃう御方です。

注意しないと、前回の変態姉と中の人が同じだということを忘れてしまうほどの演技力には心底感服。そして何より、アクシヨンシーンが異様にエロい。(→ここ重要！)

その上、音声編集まで担当していただいたという、もはや頭の上がない御方です。

そして今回、シナリオでご協力いただきました御童魁様、mumi様。

私の度重なる無茶ぶりに応えてくださった、これまた頭の上らない御方。

この御三方のご協力が無ければ、今作の完成を見る

ことはなかったでしょう。
この場を借りて、改めて

厚く御礼申し上げます。



嫁き遅れ
お姉ちゃん

●キャラ設定ラフ。「黒髪」+「眼鏡」+「巨乳」は死守した形でのイメージチェンジ。

我々、黒毛屋本舗は黒髪
愛を貫くべく、これから
日々精進を重ねていく所存
であります。

最後に。



●嫁き遅れお姉ちゃんの初期設定。当初はもっと根暗で、肌も血色悪いくらいの色白。目の下にクマまであって今にも黒魔術とか使いそうな雰囲気をもっていました。申込み時のサークルカットはこちらの画像を使用。

どうかこんな我々の姿に
呆れることなく、引き続き
皆様のご愛顧賜りますよう
よろしくお願い致します。

泉水いこ

おくづけ

嫁き遅れお姉ちゃんの原因

絵：泉水いこ

『いいはいいい。きこいいいい』 <http://izumico.seesaa.net/>

声／音声編集：奥川久美子

『*Okuckle*』 <http://okuckle.seesaa.net/>

シナリオ：御童魁／mimi

発行：『黒毛屋本舗』

印刷：金沢印刷

連絡先：izumico@hotmail.co.jp





黒毛屋
本舗

黒毛屋本舗
『黒髪NOTE』